

技術共有、適正な維持管理を

金沢でコンクリ診断フォーラム

JCI中部主催

日本コンクリート工学会（JCI）中部支部が主催する「コンクリート構造物の調査・診断技術の向上に関するフォーラム」（石川・福井・富山

ルデイスカッションなどを通し、同構造物の維持管理のあり方が探られ、技術的課題についても共有した。

ム」（石川・福井・富山コンクリート診断士会共催）は26日、金沢市角間町の金沢大学内で開かれた。各専門家によるパネ

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋の青山實伸、オリエンタル白石の角本周、国際建設技術研究所の葛目和宏、

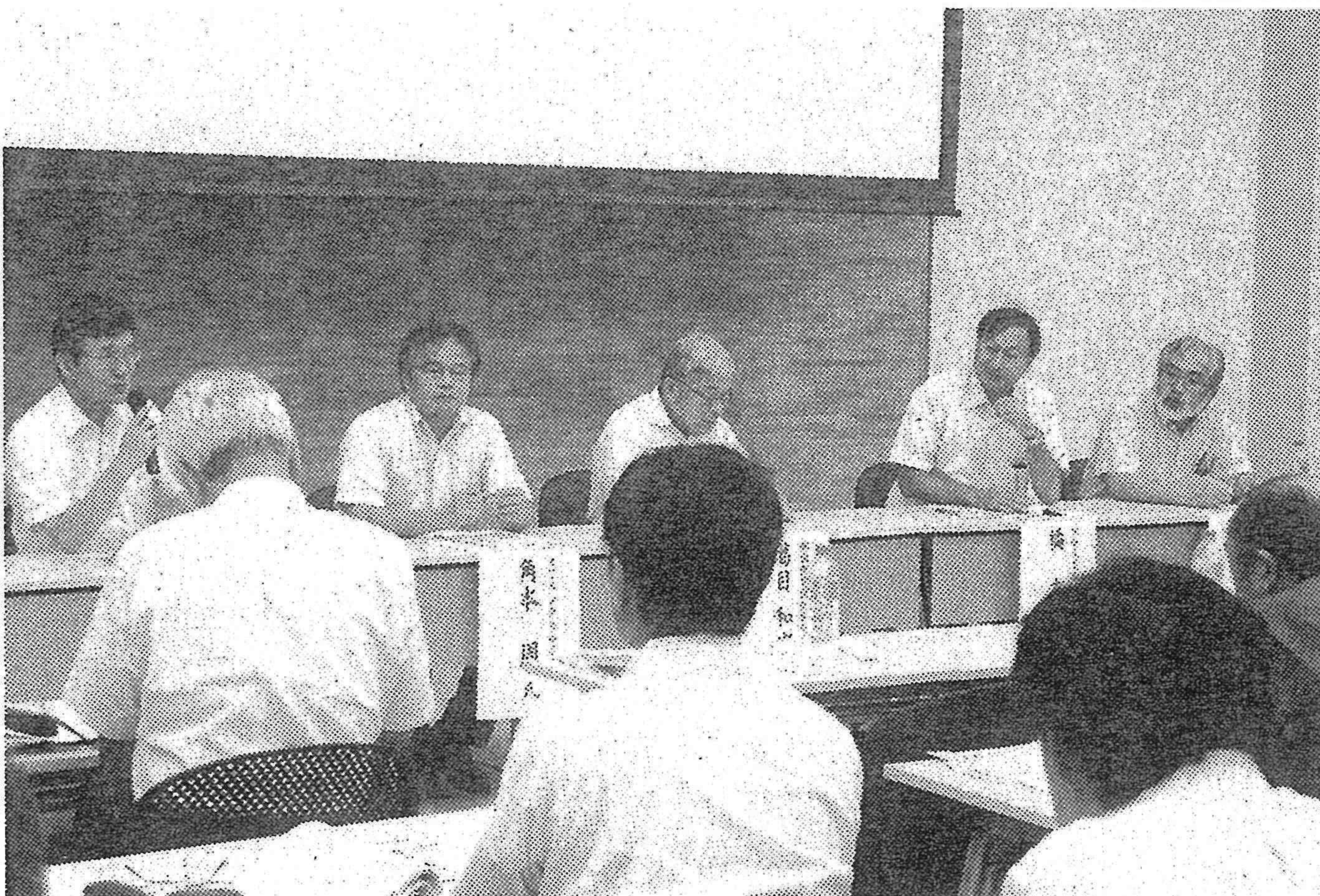
川田工業の橘吉宏、住友大阪セメントの若杉三紀夫の5氏がパネラーとなり、「コンクリートの維持管理の疑問点とその回答」をテーマにそれぞれの見解を示した。

も再劣化する」と断言。薄い床版は取り替えるべきと強調した。若杉氏は各種セメントの特徴や注入材の性能を比較した。石川県議会議員の不破大仁氏らによるまちづくりの講演なども行われた。同フォーラムには地元のゼネコンやコンサル、メーカーなどから約170人が参加した。

青山氏は、構造物の症状と対策を紹介。診断において間違えやすい事例を問われ、「常に劣化の要因を考えながら、診断すると大きな間違いはない」と答えた。

角本氏は桁端部の漏水対策などを挙げた。参加者が震災による津波への対策を質問すると、「今後の設計には路線計画を考え、取り入れていくべき」と指摘した。葛目氏は非破壊試験に言及し、超音波法や電磁波法を解説。「構造物を慎重に見て、最適な方法を適用してほしい」と訴えた。

橘氏はRC床版について「末期状態で補修して



各専門家によるディスカッションも行われたフォーラム